

## ○視察報告書（みらい下関）

日 時：平成 29 年 11 月 9 日（木）～10 日（金）

会 場：那覇市（沖縄県立武道館）

行政視察：福洲園まちまーいと魚市場視察コース

参加者：戸澤昭夫、林 透、木本暢一、香川昌則

田中義一、松田英二、江村卓三、星出恒夫

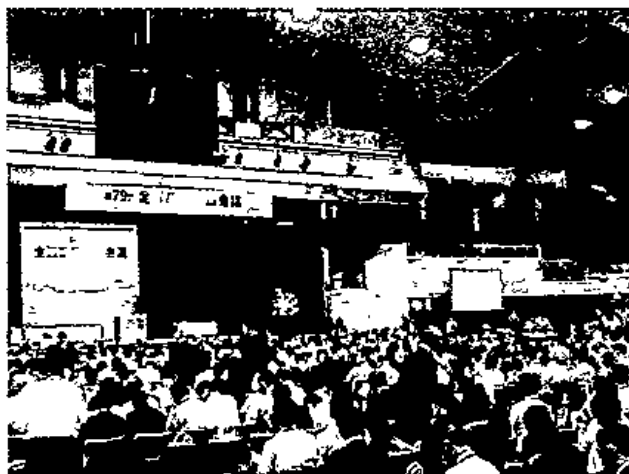
## ○開会式（11 月 9 日 9 時 30 分～）

### ・基調講演「多様性のある江戸時代の都市」

東京大学資料編纂所教授 山本 博文

江戸時代の町の特徴（城下町・宿場町・門前町・港町など）についての話から始まり、参勤交代がもたらしたものについての講義がありました。

江戸の発展や参勤交代による各地方の物の動きなどにより、他の地方への影響など面白く聞くことができました。いわゆる、現在に置き換え、本市の発展についての助言としても聞くことができました。



（会場風景）

### ・一般報告「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」

首都大学東京大学院人文科学研究科准教授 山下 祐介

以下4つの視点からの講演がありました。

1. 地方消滅から地方創生として、東京一極集中と人口減少社会。
2. 人口減の悪循環をどう読み解くか。
3. 人口ビジョンの考え方と総合戦略のあり方。
4. 成長社会の限界として、リスク社会から、リスク対応社会を経て、安定持続社会へ。

いろいろな方の講演を聞くことにより、賛同する考えや、思いつかない意見などもあり、非常に今後の対応の参考となりました。

#### ○パネルディスカッション（11月10日9時30分～）

テーマ「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」

—新しい風をつかむまちづくり—

【パネリスト】5名のパネリストの方がコーディネーターにより、意見を述べられたが、その中で参考となった事例を紹介すると、

まちひと感動のデザイン研究所代表 藤田 とし子 さん

「地方創生」の取り組みとして、ひとつに地域おこし協力隊の派遣もあるが、その隊員がいつ現れるかわからない。そこで、地域に暮らす人たちの中に新たな町づくり人材を見出し、育てていくことが求められるというものです。

彼女のまちづくりの出会いとして、柏市のインフォメーションセンターの職に就くことから始まり、地元商店街や大学関係者などの協力も得て、「市民参加で作るまち歩きマッププロジェクト」を企画されたようです。

このことから、できあがったマップは、ターゲット層の熱烈な共感を得、クチコミで噂が広がり、マスコミやSNSで拡散され、市民や来街者の「まち遊びのツール」となったようです。

この一番の成果は、市民にとって「自分ごと」としてまちづくりに取り組む舞台となり、「共感」で響き合う人々の「まちに対する誇りと愛着」を醸成できたことにあるとのことでした。

すなわち何事も、「自分ごと」としてまちづくりに取り組む地元人材の育成が不可欠とのこと。

リーダーを地元から如何に育成するかが、今後の課題だと実感しました。

#### ○行政視察（12時～16時30分）

以上